

# Support

<http://www.city.niigata.jp/info/gakusi/>

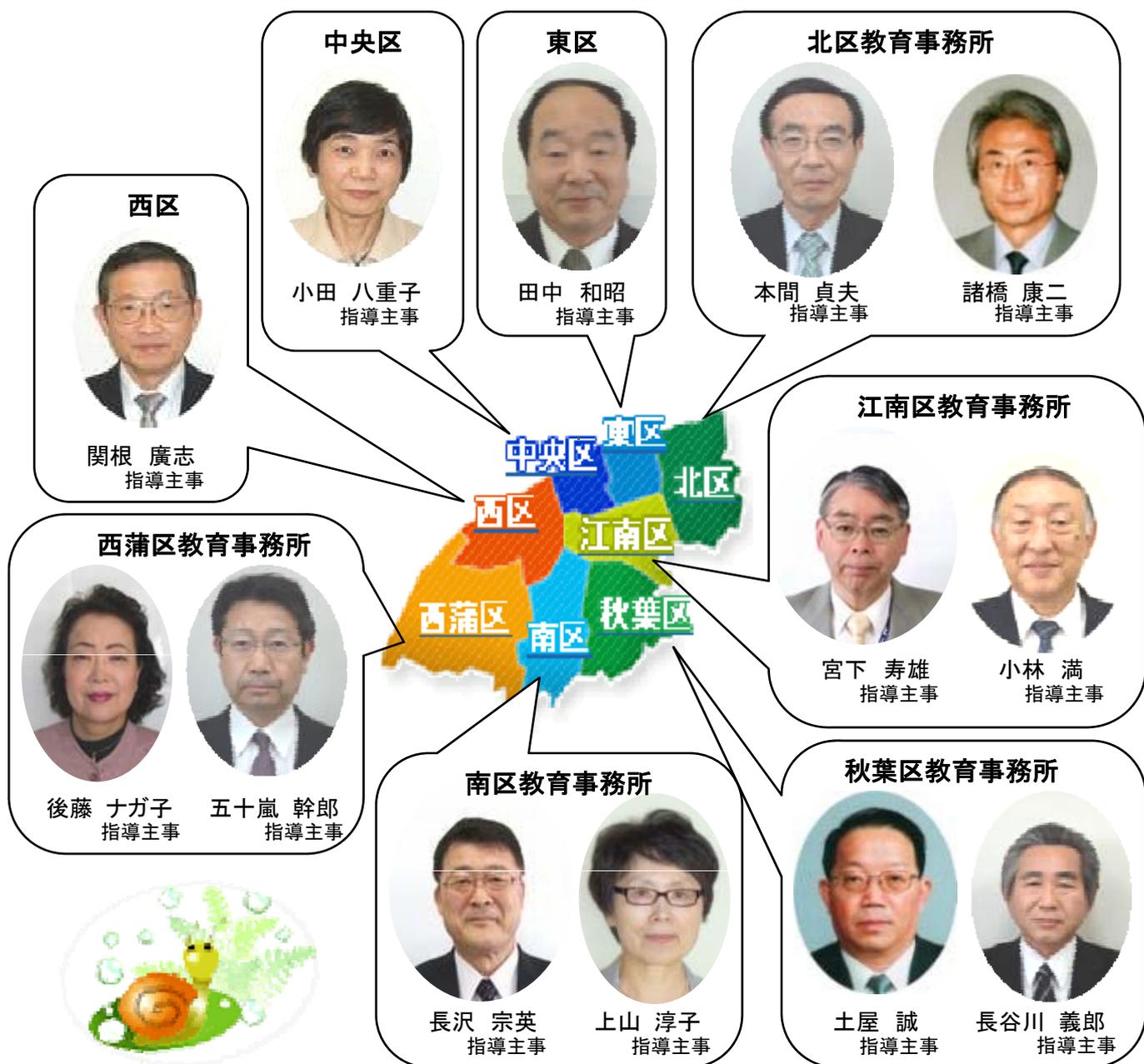
No. 2

平成24年6月26日

編集・発行

学校支援課 広報担当

私たちが各区の学校・園を支援します！



各教育事務所に2名の区担当指導主事が配置されています。  
学校支援課内区担当指導主事(東区, 中央区, 西區)とともに, さらなる支援の  
充実を図っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

# さらなる授業改善に向け



改訂版

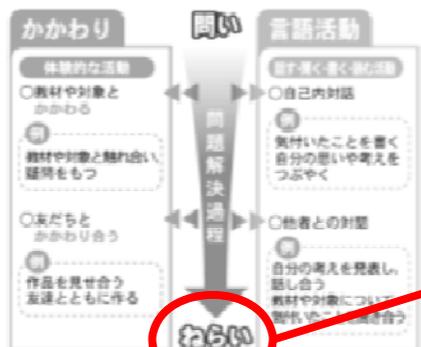
## <リーフレット改訂の意図>

各学校からは学習指導要領を踏まえた授業改善に取り組んでいただいているところですが、課題として、話し合いは組織されているものの、**思考力・判断力・表現力等の高まりが不十分な授業**があることや、**子どもが本時で何を獲得したかが不明確な授業**があることが見えてきました。

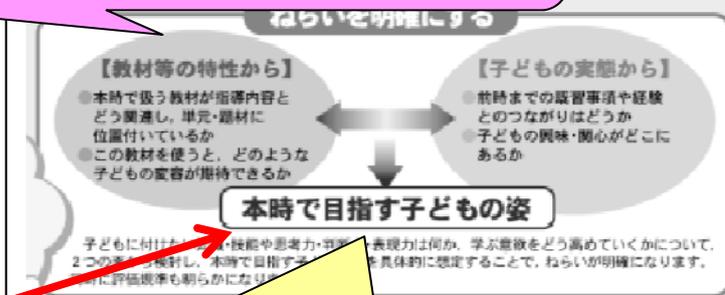
そこで、授業の本質である「ねらいと評価」を見直すことで、より質の高い授業の実現を図りたいものと考え、リーフレットを改訂しました。

★今年度の最重点課題は、**「ねらいを明確にする」**です！

p.2



p.4~5



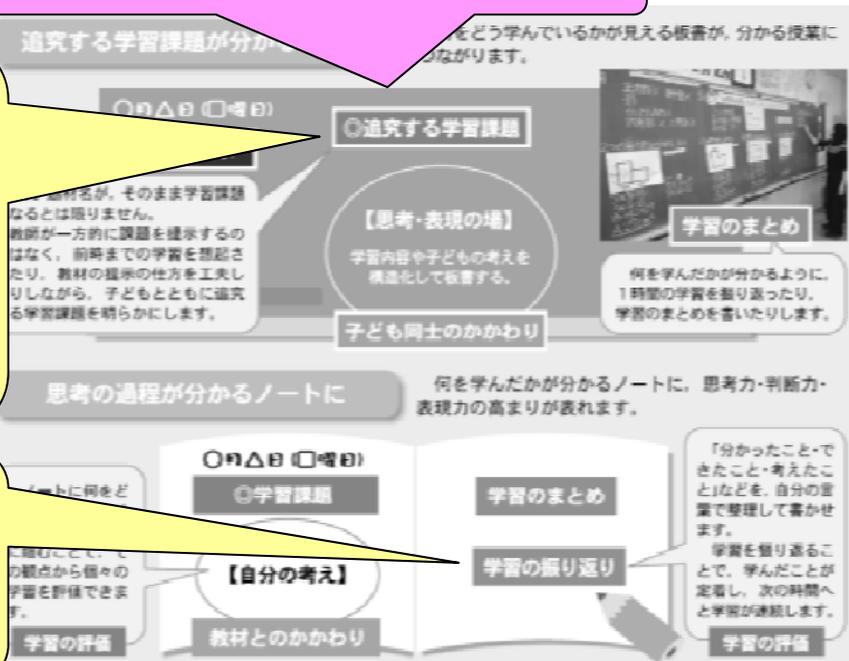
「ねらいを明確にする」ということは、ゴールイメージ(授業終末の子どもの姿)を、授業前に具体的に設定することです。

★ゴールイメージを具体的に設定すると…

p.4~5

ゴールイメージを具体的に設定すると、例えば最終板書や子どものノートなどもイメージできます。また、学習課題はきちんと板書して、常に子どもが課題を意識して学習できるようにすることが大切です。

その時間に、子どもが何を学んだのかを自覚させるために、自分の言葉でまとめるなどの活動が大事です。



# リーフレットの効果的活用を!!

新規!!

## <子ども一人一人の成長を促すために>

各学校では、日頃より、子どもの気持ちに寄り添った言葉がけ等の対応を心がけ、一人一人の成長を支えていることと思います。

生徒指導は、課題や問題の解決を行うことだけではありません。

子どもの得意なことや良さを認め、多面的な「児童生徒理解」を基盤に、子どもたちの可能性を伸ばし、一人一人の成長を促すことです。

また、一人一人の成長を促すためには、子どもと教師の厚い信頼関係と、学校全体の共通理解に基づいた取組が不可欠です。全職員による、意図的、計画的、組織的な生徒指導の取組をよろしくお願いします。



## ★最重要ポイントは「児童生徒理解に基づいた信頼関係」です!

リーフレットP.2 P.3

子どもの話に耳を傾け、言葉やつぶやきを大切にしていますか?  
子どもたちは「受けとめてもらえた」と感じると、教職員との心の距離が縮まります。より厚い信頼関係が築けるようになります。

表情や態度などからも、子どもの発するメッセージを受けとめ理解していますか?  
子どもの変化を見逃さない感覚を磨いていきましょう。

「わかった」「できた」「やれた」という成功体験や成就感を大切に活動し、教職員はその活動を支援します。

### 児童生徒一人一人に対して

### 教科の授業で

授業こそ重要な生徒指導の場面です。「互いに認め合い、支え合い、高め合う」授業をつくり、「めあてをもち、自己決定し、自主的に行動する」場面を授業で実現することが重要です。

協同活動の場や機会を意図的、計画的に設けることで、集団の中で、友達とかかわり、互いに認め合い、支え合う経験を積んでいきます。

### 集団に対して

### 特別活動で

「こんな集団になりたい」という子どもの願いを実現するために、自分たちで決め、運営できるように意図的、計画的、組織的に支援します。

## 問題が発生したときの対応は・・・

子どもたちの前向きな取組、がんばりなど「よいところ」を同僚同士語り合っていますか?

生徒指導の場面は、学校生活の中にたくさんあります。意図的、計画的、組織的な取組にするために職員研修などで話題にしてください。

従来の生徒指導は「課題解決」に対応することだととらえていました。

## 「家庭学習のススメ活用の手引き」を作成しました！

新潟市教育委員会では、学校と家庭の連携で、子どもたちに「確かな学力」を身に付けるために、平成19年度から「家庭学習のススメ」を作成・配付し、子どもたちの家庭学習習慣の確立を目指してきました。

今年度、家庭学習習慣の確立への取組のさらなる充実に向けて、各学校の実態に合わせて使えるよう、「家庭学習のススメ活用の手引き」リーフレットを作成・配付しました。

「平日、家では1日どれくらい勉強しているか」についての調査を行ったところ、「家庭学習のススメ」を初めて配付した平成19年度は、1時間以上学習する児童の割合が、小学校6年生で、48.1%でしたが、年々増え続け、平成22年度は、81.8%にまでなりました。

また、中学校1年生でも、平成19年度は、40.7%でしたが、平成22年度には、71.4%まで増えています。各校の取組の成果が表れていますね。

(H23.2新潟市立総合教育センター「新潟市生活・学習意識調査報告書」による)



これから大切にしてほしいポイントはこれです！

- 1 全校体制で家庭学習の習慣の確立に取り組みましょう。
- 2 家庭学習について、学校内で共通理解を図りましょう。
- 3 家庭学習のやり方について、指導や支援をしましょう。
- 4 家庭学習について、保護者の皆様と連携を図りましょう。



ある学校の取組を紹介します。自校の取組の参考にしてください。

H中では、平日は1時間以上、週末は2時間以上家庭学習に取り組む生徒が70%を上回るように、全校体制で取り組んでいます。

B小では、夏休みや冬休みに、Web配信問題や全国学力調査問題を課題の一つに取り上げ、復習に力を入れています。

S先生の所属学年では、自主的な学習をやってきた子どもの思考の流れが分かるノートを印刷して、全員に紹介することを続けています。

